

2018年3月期第3四半期 決算説明会 質疑応答

2018年2月8日に開催した決算説明会における主な質疑応答は下記の通りです。なお、記載内容につきましては、ご理解いただきやすいよう一部に加筆・修正をしております。

Q1：通期の業績予想を上方修正したが、ハリケーンの影響による止血デバイス「アンジオシール」の生産停止の影響も限定的で、業績も好調に推移している。通期の想定為替レートも変更していない中で、更なる上振れの可能性は？

A1：例年、第3四半期の業績は他の四半期と比べて高めの水準で推移する一方、第4四半期は販管費が多めに発生する傾向がある。止血デバイスの販売は、1月はバックオーダーの解消を背景に高い水準で推移したが、2月以降もこの水準が続くかどうか判断するには、もう少し様子を見る必要がある。通期の想定為替レートを据え置いた理由は、数多くの新興国通貨がある中で、今後の為替相場の動向とその影響額を合理的に見積もることが困難なためである。

Q2：「アンジオシール」の売上高は現在どの程度か？売上が伸びている主な要因は、冠動脈疾患に対するカテーテル治療で、大腿動脈からカテーテルを挿入した場合の用手圧迫止血からのシフトが増えているからなのか？あるいは、末梢血管および脳血管疾患に対するカテーテル治療での使用が増えているからなのか？

A2：足元では月商で20～30億円程度。売上げが伸びている要因は主に前者である。末梢血管および脳血管疾患のカテーテル治療における使用は、従来よりも増えているという実感はないが、今後は着実に増やしていきたい。

Q3：今年度の薬剤溶出型冠動脈ステントのグローバルでの売上見通しは？日本では、他社が新製品を発売する様だが、その影響をどう見ているか？

A3：今年度の売上高は昨年度と同水準と見ているが、第3四半期までの進捗を見ると、見通しをやや上回る水準となっている。現時点で他社の新製品による影響がどの程度あるのかを予測するのは難しいが、通常、医師は新製品が出ると試し使いをする傾向があるので、一時的な影響はあると見ている。

Q4：ニューロバスキュラー（脳血管）事業の売上は、第3四半期累計で前年同期比30%以上伸長しているが、この伸びを牽引している製品は？また最近、米国心臓協会（AHA）が脳梗塞治療のガイドラインを改訂し、デバイスを用いた治療を従来の発症後6時間から最長24時間に延長した様だが、ニューロバスキュラー事業にとっても追い風となるか？

A4：通常のコイルは市場が成熟しつつあり、売上もあまり伸びていないが、最近のスタディで、血液中の水分を吸収して膨らむハイドロゲルを使用した当社コイルの治療成績が通常のコイルと比べて良い結果であったことも追い風となり、売上が伸びている。また、吸引カテーテルの販売も好調に推移している。ガイドラインの改訂は当社にと

って追い風であり、脳梗塞治療向けの製品開発にも引き続き注力していく。

Q5：米国では、低所得層や健康な若年層を中心に、無保険者が若干増加傾向にある様だが、血管内治療を受ける方は主に高齢者であり、米国での売上高にはあまり影響ないと見てよいか？

A5：一般論としてそのような傾向はあるかもしれないが、米国でのTIS（カテーテル）事業の売上高は、無保険者数の変動とは関係なく、ここ数年ほぼ二桁成長が続いている。したがって、米国TIS事業の売上高と無保険者数との相関関係はあまり無いと見ている。

Q6：上期以降、日本の売上高は回復基調にある様だが、事業環境に変化はあるか？

A6：事業環境に特に大きな変化は見られない。要因の一つとして、輸液ポンプの販売が回復基調であることが挙げられる。第1四半期は買い控えて伸び悩んでいたが、8月に発売した新しい輸液ポンプの販売が好調に推移している。

Q7：血液がんに対する新たな治療法として、患者さんの血液から採取したT細胞に遺伝子操作を加えて用いる「CAR-T細胞療法」の普及が期待されている。血液システムカンパニーは、遠心型血液成分分離装置や細胞増殖システムを持っているが、この分野でのビジネス拡大の余地をどう見ているか？

A7：今後、伸びる可能性のある分野として期待している。血液システムカンパニーでは、細胞の採取だけでなく、分離、洗浄、培養、濃縮、製剤化に使われるシステムなど、CAR-T細胞療法を行うために必要なプロセス毎の製品を揃えており、この分野でのビジネスを拡大させていきたい。

以上